



# 医薬品情報の共有化 薬剤師専門性に期待感



## 静岡大 山田氏が講演

第13回日本医薬品情報学会(大会長…山田浩静 岡大学薬学部)が24、25の両日、浜松市内で開かれた。大会長講演「職種を超えて担う医薬品情報」で山田氏は、職種を超えて医薬品情報を提供して

山田氏はまず、日常診療の場では、薬物治療が非常に重要な位置を占めているが、その情報量が非常に膨大であることから、「各個人が1人で医薬品情報を扱う、よい治療を行うには限界がある。やはり、専門性を持った人が情報を管理し、提供してもらうことがぜひとも必要」との考えを述べた。

いくために、薬剤師が専門性を発揮して、入手した情報を他の医療スタッフにリアルタイムで的確に提供しするといった、情報の共有化を図ることの重要性を強調した。

を超えて医薬品情報を提供していくためには、「医薬品情報を扱っている人が、専門性をアピールしていくことが必要」との考えを強調。非常に高度な専門的内容を、他の医療スタッフに

提供するといった取り組みの必要性を挙げた。医薬品情報を扱う薬剤師に期待するスキルとして、▽膨大な医薬品情報を適切に調査・収集し、整理する▽PDMや疫学、生物統計学に基づいて批判的な吟味を加えて正しく評価し、日常診療でそれらを適正に確保する▽的確かつリアルタイムで情報を提供する—などを示し、「こう

した一連の流れが、医薬品情報を扱う薬剤師に期待するところ。この業務は極めて高い専門性が要求される」と指摘した。さらに、日常の医療現場で、こうした医薬品情報で、確かつリアルタイムに提供するためには、「薬剤師、DI室も含めた院内体制の充実も必要だ」と施設全体として推進していくことが重要とした。

により、「入院時や保険薬局での服薬指導において、指導の効率と精度が上がった」と強調。このほか、▽保険薬局でも検査値の変化と投与量関連事項が確認でき、より患者の状況を把握しやすくなった▽保険薬局薬剤師が、収集した情報を医師へスムーズに伝達することが可能となった—などを成果として挙げた。一方で、課題としては、▽かかりつけ医などへ治療が移行される際は、パス利用について連絡が確実に行われること▽正しい運用方法、連絡方法の徹底などを理解してもらうため、引き続き地域医師会と薬剤師会へ説明を行っていくことが必要—などを指摘した。

況がある。すなわちそれは、個々の患者に対する質の高い医療の提供、または医薬品の有効性と安全性の確保と適正使用に貢献するということだ」と、薬剤師の活動に期待を寄せた。また、職種

## C型肝炎で連携パス お薬手帳活用例を紹介

シンポジウム「地域連携における医薬品情報の共有—もう一つの医薬品情報源、お薬手帳—では、横浜市東部病院薬剤部の江口裕三氏が「お薬手帳型C型肝炎肝炎治療地域連携パスの有用性—横浜市東部地域における保険薬局を介した取り組み」を紹介した。

江口氏は、病診連携、薬薬連携ともに活用可能な「お薬手帳型C型肝炎肝炎治療地域連携パス」を作成。連携パスには、病院項

目として▽HIV genotype  
▽INP投与薬剤名▽基礎疾患▽入院中の副作用発現状況▽生活指導—など、

保険薬局項目として▽服用状況▽副作用発現情報▽生活指導▽OTC薬を含む併用禁忌薬剤のチェック項目—などを設けた。共通項目としては、連絡事項記入欄を設けた。江口氏は連携パスの導入